

平成30年度
地球環境『自然学』講座
第 19 回

テーマ
日本林業再生への道:人工林問題

講 師

京都大学名誉教授

竹内 典之 先生

平成 31 年 2 月 9 日
認定NPO法人・シニア自然大学校

講師プロフィール

竹内 典之（たけうち みちゆき）



1. 経歴

- 1944 年 京都市嵐山生まれ
- 1964 年 京都大学農学部林学科に入学
- 1971 年 京都大学農学部附属演習林助手に採用
助手、講師、助教授、教授として
北海道演習林、和歌山演習林、芦生演習林でフィールド研究・管理に携わる
- 2003 年 フィールド科学教育研究センター副センター長
- 2008 年 退職

2. 現職

退職後は、

日本に健全な森をつくり直す委員会委員

ポロビーシーエス山林部顧問

C.W ニコル・AFAN の森財団評議員

津和野町・吉賀町アドバイザー

等として、“明るい森”、“子供たちの声か聞こえる森”づくりに携わる日々を過ごしている。

“森づくり”を楽しむ

私が生まれ育った京都市嵐山地区では、すでに室町時代には利水用水として利用されていた洛西用水が、昭和 20 年代末にはコンクリート三面張りに改修されてしまった。用水の改修工事が終了すると、田畑や近くの森が宅地へと変わっていった。



写真 1. 懐かしい我が家



写真 2. 近隣の風景

写真京都叢書NO1「天竜寺・苔寺とその周辺」 大原写真工業社出版部（1958）より

写真 1. 中学 3 年生だった 1059 年 9 月の伊勢湾台風で大きな被害を受けるまでを過ごした我が家

写真 2. 南方に 500m ほど離れた松尾大社喜多門付近から我が家を遠くに望む



写真 3. 2015 年（60 年後）の近隣の風景



写真 4. 比良山武奈ヶ岳

小学生高学年、中学生、高校生時代を通して開発が進むにしたがって、森から人の気配が少しずつ希薄になり、徐々に荒廃するようになった。それとともに、私が近くの森に行く機会も少しずつ減少していき、森の探訪は愛宕山、比叡山から北山さらには比良の山々へと次第に広がっていった。

大学は、京都大学農学部林学科に入学した。大学生、大学院生時代には、夏休みを利用して毎年南アルプスの山地帯、亜高山帯、高山帯へと変化する植物を観察し、屋久島の豊かな森や白神山地のブナの森など日本の多様な森を訪ね歩いた。



写真 5. 屋久島の海岸近くの森
多量の降雨によって深く
浸食された谷から海岸線を
望む。



写真 6. 十三湖周辺の森
白神山地大崩山から十三湖
を見下ろす。

昭和 46 年京都大学農学部附属演習林助手に採用され、農学研究科大学院後期課程を中退することになった。任地は東北道の根釧原野の北西部・標茶町に所在する北海道演習林で、初めての北海道の景観を満喫できると喜んで赴任した。釧路空港着陸前に眼下に見た広大な釧路湿原と大型重機による農地（牧草地）の大規模な開発は、私が初めて見た北海道の景観として今も強烈な印象として残っている。



写真 7. 釧路湿原

着任後は、北海道内の森の現状とそれらの森がどのように使われてきたのかを把握することを目的に調査を始めた。阿寒、知床、大雪などの原始の姿が残っている天然林から放棄された牧草地に再生した若齢の再生林まで、様々な森を訪ね歩いた。この時の経験と得た知識が、以後の“森づくり”の基礎となり、平成 15 年に森里海連環学創成を目指すフィールド科学教育研究センターへとつながっていった。



写真 8. 雄阿寒の森林



写真 9. 北海道の針広混交林



写真 10. ミズナラ再生林



写真 11. ヤチダモを主とした天然生林

“森づくり”には、森の多様性 D (genetic diversity、species diversity、ecosystem diversity) の保全に留意し、生産性 P (productivity) を確保し、調和 B (balance) を保ちながら、その土地の風土 C (climate) に合った方法を用いる必要があると考えている。40 年余り DPBC を念頭に“明るい森”、“美しい森”、“常に人の気配が感じられる、とくに子供たちの声の聞こえる森”を造ることを目指してきた。近年は、私の“森づくり”に賛同し、一緒に働いてくれる仲間も少しずつではあるが増えてきている。

退職後 10 年、70 代半ばになった今も毎月島根県高津川流域と奈良県東吉野村で、ほぼ 2 か月に一回長野県黒姫、などで仲間たちと“森づくり”の活動を行っている。理解してくれる仲間たちと一緒に大好きな“森づくり”をし、その森を人々とくに子供たちが楽しんでくれれば、これほど幸せなことはない。今後も、体の許す限り“明るい森”、“美しい森”、“子供たち

の音が聞こえる森”を少しでも増やしていければと思っている。

竹内典之（森林科学 森林資源管理学）



写真 12. アファンの森（手入れ前）



写真 13. アファンの森（手入れ後）



写真 14. アファンの森（馬搬）



写真 15. アファンの森（雪中散策）



写真 16. 津和野町合併記念の森



写真 17. 津和野町合併記念の森